

「新春！めでたづくし」

会期 2014年1月10日(金)～2月28日(金)

会場 本館常設展示室

出品目録

このたび当館常設展「高岡ものがたり」内において、2014年の幕開けに合わせた「新春！めでたづくしコーナー」を開設いたしました。本展示では、高岡ゆかりの漆芸作家・彼谷芳水作「鳳凰文飾盆」をはじめ、本年の干支である午（馬）、七福神、鯛などの新春を迎えるにふさわしい吉祥資料を展示します。

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
1	「双鶴若松図」(左幅) 「旭日若松図」(右幅)	嘉永7年 (1854)	2	(本紙) 107.2×42.0	横山清暉筆(※1)。二幅対の図。右幅に旭日に若松、左幅に二羽の鶴と若松が描かれる	当館蔵
2	高岡彫刻塗鯛盆「二匹鯛」	明治末～大正期頃	1	最大径70.5 ×高2.5	彫刻塗で作られた鯛盆(※2)。彫刻塗は、木地を彫刻して錆漆(「砥の粉(砥石の粉。また黄土を焼き粉にしたもの)」を混ぜた漆)を塗り、漆を何度も塗っては磨き、彩漆(岩絵の具を混ぜた漆)で模様を描いて古味(灰墨)を溝に付け、最後に手のひらで磨いて仕上げる技法	当館蔵
3	※1/10～2/7まで展示中 「彫漆 鳳凰文飾盆」	昭和53年 (1978)	1	径30.4cm× 高2.3cm	彼谷芳水作(※3)。彫漆とは、木地に漆を塗り重ねてから漆の層を彫刻する技法である。塗り重ねる漆の色を変えると、木目のような縞模様を表すことができる。古来中国では、鳳凰は聖徳の天子の兆しとして現れると伝え、前田利長が高岡開町の折に、『詩経』の一節「鳳凰鳴矣于彼高岡」から「高岡」という地名を名づけたと伝える	当館蔵 (越野培名男氏・越野信子氏寄贈)
4	鳥田宗吾作「将軍・馬色絵象嵌青銅飾皿」	平成8年 (1996)	1	幅35.0×奥行34.7×高0.5	彫金・鳥田宗吾(※4)、地板制作・大澤光民。銀・銅に金を混ぜ合わせ、金の配合する割合によって、赤や青などの色の違いをあらわしている	荒俣勝行氏蔵 (当館寄託)
5	引札「高岡市旅籠町仙田仁右衛門」		1	26.0×36.9	「八百屋物砂糖／雑穀着物卸小売」。鶴が羽を広げた円の中に七福神が描かれる。七福神とは、福德をもたらす神として信仰される七体の神のこと。七福神信仰が盛んとなる近世中期以降は、恵比須・大黒天・毘沙門天・弁財天・布袋・福祿寿・寿老人の七神をいう	当館蔵

6	引札「高岡市旅籠町 畠山商会」	1	25.2×36.2	「洋鐵金物商／土木建築鉄工品」。日本が赤く記された地球儀の上を、旭日旗(朝日を図案化した日本の旗。明治時代から第二次世界大戦終戦まで軍旗として使用)を背負った馬が駆ける様子が描かれる	当館蔵
7	※2/8～2/28展示中 全国の郷土土人形 (左より愛知三河土人形・気仙沼土人形・佐賀能古見土人形・長崎古賀土人形)	4	—	土を焼いて作られたもの。胡粉(貝殻の粉)を付け、泥絵の具(胡粉に色を混ぜてできた粉末状の絵の具)で彩色する	当館蔵

計7件11点

※1	横山 清暉 〔生没年：寛政5年(1793)～元治元年(1864)〕	江戸後期の四条派の画家。京都出身。四条派の祖である松村呉春の弟・松村景文に師事し、花鳥・山水・人物画を得意とした。幕末期には「平安四名家」の一人として、塩川文麟(四条派)、岸連山(岸派)、中島来章(円山派)らとともに大きく活躍した。			
※2	◆高岡が生んだ優れたデザイン◆ 高岡彫刻塗「鯛盆」の誕生	彫刻塗は、明治27年(1894)設立の富山県工芸学校(今の県立高岡工芸高校)校長の納富介次郎(デザイン)と教頭の村上九郎作(彫刻)により開発された「鯛盆」に始まる。 この鯛盆は、二匹の鯛が抱き合う図の“二匹鯛”とよばれる手ぐり盆が初めに作られ、後に、挽物木地に一匹の鯛を円形にデザインしたものなどが作られるようになっていく。やがて鯛盆は高岡漆器を代表する人気商品として、数多く生産されるようになった。			
※3	彼谷芳水 〔生没年：明治32年(1899)～平成6年(1994)〕	高岡市生まれの漆芸家。本名は芳三。能町小学校卒業後、12歳で三代石井勇助の門に入り、内弟子として技の習得に励む。大正4年～昭和30年(1915～55)には富山県工業試験場の漆工部助手を勤めた。この間大正5年頃から公募展に出品し、昭和11年(1936)の帝展初入選。日展や現代工芸展、新工芸展などで作品発表を続け、同25年には「彫漆風呂先屏風 白樺」で日展特選、同39年には富山県無形文化財に認定された。享年95。			
※4	鳥田 宗吾氏 〔昭和15年(1940)～〕	高岡市宮田町在住の彫金師。本名は稔弘。父・精二(玉峰)氏に師事。平成14年(2002)、第26回全国伝統的工芸品展内閣総理大臣賞をはじめ、各種の伝統工芸展等で受賞多数。また、高岡市民・富山県民功労者表彰や、平成19年(2007)「現代の名工」厚生労働大臣表彰等の表彰も多数ある。後継者育成にも尽力している。			

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。

凡例

- ・資料名は、原則として表題等の記載がある場合はこれを採用し、旧字は新字に改めた。
- ・寸法は、縦×横(cm)とし、複数資料は省略した。